

健康を「そうぞう」
する子ども



未来を「そうぞう」する子どもを育成するために…

本校では、本年度より希望に満ち溢れた未来を「想像」する、希望に満ち溢れた未来を「創造」という二つの意味を兼ね備えた「未来そうぞう」を主題とした新教科「未来そうぞう科」を創設するとともに、「各教科・領域における『未来そうぞう』」において、各教科・領域においても「未来そうぞう」をテーマに学習を展開しています。

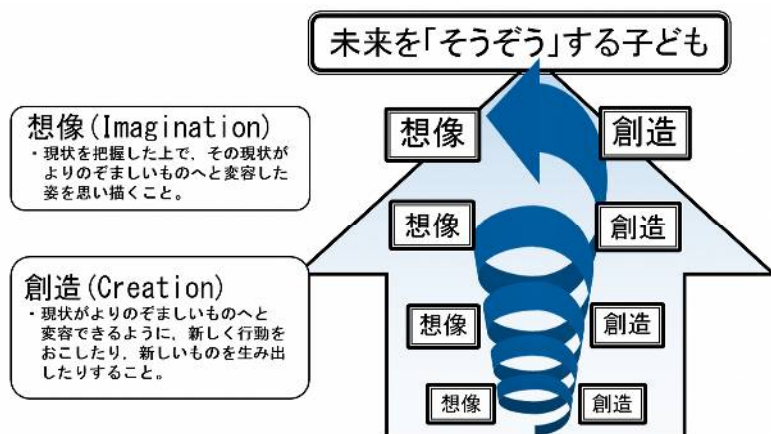
【本研究においてめざす子ども像】

未来を「そうぞう」する子ども

希望に満ち溢れた明るい未来を「想像」し、そのような未来の「創造」にするために、自分自身、社会、環境などに対して、グローバルな視点で具体的なアプローチをし続けることができる「主体的実践力」「協働的実践力」「創造的実践力」を備えた子ども

【未来を「そうぞう」する子どもを育成するための学びのプロセス】

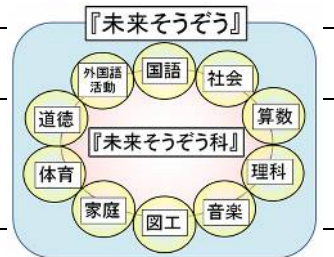
本研究においては、「想像」と「創造」を繰り返しながら、「未来を『そうぞう』する子ども」を育成するために学びを進めていきます。「想像」と「創造」は、互いに往還しながらも、より広がりのある「想像」がより具体的な「創造」につながり、その「創造」がさらなる広がりのある「想像」へとつながっていく、などのようにそれぞれの質を高めながら「未来を『そうぞう』する子ども」をめざして進んでいきます。



本年度の取り組み

「未来を『そうぞう』する子ども」の育成に向けて、各教科・領域において、次のように研究を進めています。

研究主題及び概要	
国語	未来そうぞう科の主体的実践力・協働的実践力・創造的実践力の基盤となる基礎的な言語能力を育成するために、今年度は、「主体的な表現者」を育む文学の授業開発～読みの瞬発力を高める短文教材の発掘～を研究主題として研究を進めていきます。
社会	未来を「想像」し、「創造」していく土台としての、「価値判断・意思決定力」を育てる授業づくり
算数	生きる算数の授業づくり
理科	未来を創造する子どもを育てる理科教育～E S Dの視点に立った授業を通して～
音楽	音楽的思考力を育成する音楽科の授業デザイン～創造的音楽活動を実現する日本伝統音楽の授業～
図工	未来をそうぞうする素地となる主体的実践力・協働的実践力・創造的実践力の育成をめざした造形活動を研究主題として取り組む。
家庭	今ある生活を見つめることからより良い未来を創りだそうとする子どもの育成
体育	これから先の未来においても重要になると考えられる「自分や身の回りの人の健康」をテーマに、新しい単元の開発に取り組む。
道徳	3つの実践力の基盤となる意欲と態度の育成に関わって、未来そうぞう科のカリキュラムを核に据えた問題解決的な道徳の授業づくりを研究主題に掲げ、実践研究に取り組む。
外国語活動	グローバル社会に対応したスキルの育成とその基盤となる未知への好奇心「課題への探求心」「体験への達成感」の育成に働きかける外国語活動
未来そうぞう	キャリア教育、多文化・共生教育、E S D教育の視点に立ち、「主体的実践力」「協働的実践力」「創造的実践力」を育成することを旨とした授業実践に取り組む。



体育科

～主体的に運動に親しみ、自分の将来にわたる健康をそうぞうする子どもの育成～

体育科では、研究テーマを『未来を「そうぞう」する子ども～主体的に運動に親しみ、自分の将来にわたる健康をそうぞうする子どもの育成～』として、研究に取り組んでいます。その第一歩として、6月29日（水）に校内公開授業を行いました。運動の習慣化が健康のそうぞうにつながると考え、1年生の1学期の段階においては、まず、運動することに対する関心を高めたいと考えました。そのためには、運動することに抵抗を感じている子どもも取り組みやすく、運動したことの結果が目に見えるようにしたいと思い、ウォーキングに取り組みました。



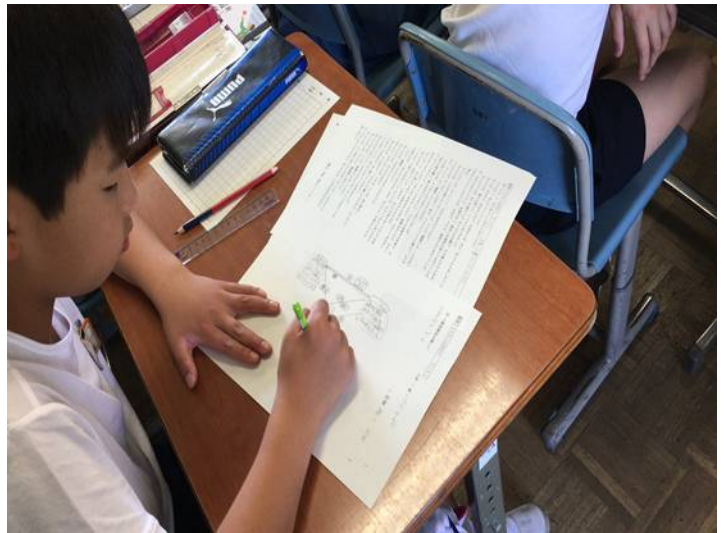
実際の授業は、歩数計のデータから今の自分が日々どれくらい歩いているのか把握することからはじまり、たくさん歩くことが健康につながることを知り、実際にみんなで歩いて歩数計の数が増えることを実感し、日々の歩数を増やすためにできることを考えるといった展開にしました。ひとつの授業の中で、「想像」と「創造」を往還するような展開にすることで、未来そうぞう科との関連を図っています。この公開授業の反省を活かし、今後も体育科における未来そうぞうを考えていきたいと思ひます。

国語科

『主体的な表現者』を育む文学の授業開発～読みの瞬発力を高める短文教材の発掘～

国語科では、本年度は、『主体的な表現者』を育む文学の授業開発～読みの瞬発力を高める短文教材の発掘～について研究を進めています。今回は、「物語マイスターになろう パート1」という単元で、授業を行いました。本単元では、物語の様々な短編集を、観点を決めて読み進めるレッスンを行っていくことで、読みの瞬発力を高めることをめざしています。本単元では、1つの物語をじっくりと時間をかけて読み進めるのではなく、複数の物語短編集を、「内容」「冒頭部分」「表現の工夫」など、観点到に沿って、読み進めました。その中でそれぞれの作品の共通点や相違点に着目することで、読み手という立場のみでなく、書き手の視点で物語を意識することが可能になります。

また、そうすることで、物語の面白さや作者の工夫について気づいたり、それに対する自分の考えを持ったりすることができると思えました。本単元は、「パート1」として、「人物と人物の関係による心情の変化」に着目して進めました。本時では、なかなか身につけた力を生かすところまでは見られませんでした。単元終了後、社会科の中で戦いに関わる人物を整理するためや、未来そうそう科で今の自分と関わる人々を整理するために人物相関図が活かされている場面が見られました。



未来そうそう科

～未来を「そうそう」する子どもを育成するためのカリキュラム開発～

子どもたちは、敷地内の附小池に行き、オタマジャクシを捕まえて教室に戻ってきて育てようとしている子どもの姿が見られました。ある日、ある子どもが「最近、附小池でオタマジャクシやカエルを見ないねん。」そこで、「NHK for School (どうする!? 地球のあした)」を視聴しました。この番組では、「ダルマガエル」が絶滅危惧種になっており、地域や学校で保護する活動を進めている内容をドキュメンタリーで紹介しています。番組を視聴し終わった後、附小池でも生きていだろう、「トノサマカエルやツチカエルは、どうだろうか？」とクラスで考える活動を行いました。(大阪府には、「大阪府レッドリスト」が発行されており、絶滅のおそれのある野生動植物の危険度がランク付けされています。<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>)

大阪府レッドリストを見せると、子どもたちは最近見なくなった「トノサマカエル」や「ツチカエル」が、準絶滅危惧種にランク付けされていることに驚いていました。その後のふりかえりでは、「保護しよう。」「池をきれいにしたい。」という意見が大半を占めていました。「大阪府で準絶滅危惧種に設定されている『トノサマカエル』や『ツチカエル』は、他の都道府県では、どうだろうか。田畑が少ない大阪府だからこそ準絶滅危惧種に設定されているのだろうか?」「だとしたら、自然が多い他府県なら大丈夫なのではないか?」などの疑問を持ち始めました。他の都道府県のレッドリストを調べる活動を通して、「自然や生命の尊重」、「生態系の保護」というESDの活動へとつなげ、未来を「そうそう」する子どもの育成を進めていきたいと考えています。

絶滅危惧Ⅰ種(CR+EN)	
↑ カシミサンショウウオ	サンショウウオ科
ダルマガエル	アカガエル科

絶滅危惧Ⅱ種(VU)	
↑ コガタブチサンショウウオ	サンショウウオ科
↑ ヒダサンショウウオ	サンショウウオ科
オオサンショウウオ	オオサンショウウオ科
◇ ニホンヒキガエル	ヒキガエル科
○ ニホンアカガエル	アカガエル科
↑ ヤマアカガエル	アカガエル科

準絶滅危惧(NT)	
◇ アカハライモリ	イモリ科
○ ツチカエル	アカガエル科
○ トノサマカエル	アカガエル科
◇ シュレーゲルアオガエル	アオガエル科

